

**憲法の「平和主義」を蔑ろにし、
雪崩を打って「米軍との一体化」、「軍隊化」に向かっている自衛隊のあり方に反対し、
米国と「共に」戦争へと突き進む岸田政権に強く抗議する声明**

わたしたちは、憲法の「平和主義」を蔑ろにし、米国と「共に」戦争へと突き進む岸田政権に強く抗議を表明する。

一昨年、閣議決定で国会の議を経ることなく「安全保障関連 3 文書」（「国家安全保障戦略(NSS)」、「国家防衛戦略」、「防衛力整備計画」）を改定し、軍備の財源確保、また軍事産業支援の「防衛力強化 2 法案」（「防衛財源確保法案」、「防衛生産基盤強化法案」）を成立させたことに、改めて反対を表明する。

また「防衛装備移転（武器輸出）三原則」（以下、「武器輸出三原則」）の運用方針が 2023 年 12 月に改定され、多くの武器のライセンス元への輸出を可能とした。2024 年 3 月にも「武器輸出三原則」が改定され、紛争を助長する殺傷兵器の「戦闘機」の輸出を国会抜きで再び可能にした。これら武器の輸出は、従来の政府解釈でも考えられない憲法の逸脱であり、到底許されない。よって今国会で承認されようとしている次期戦闘機のための政府間機関「GIGO」設立に関する条約も、到底認められない。

自衛隊を巡る状況に強い憂いを抱いている。

米軍と指揮・統制枠組みをそろえ、武力行使の力を大きくするための自衛隊「統合作戦司令部」創出のための「防衛省設置法などの改正法案」が可決、成立したことに強く反対する。

岸田文雄首相が米国議会で「日本は共にある」と演説し、日本を際限のない米国の安全保障のための「グローバルな」戦争協力へと導いたことにも、強く抗議する。

自衛隊の考えられない不祥事----それは、昨年来の靖国神社への自衛隊員の度重なる集団参拝や先の十五年戦争を侵略戦争、帝国主義、植民地支配を肯定する「大東亜戦争」と投稿するなど。これらは共に岸田政権が憲法を踏みにじりながら、勇ましく推し進めている自衛隊の「米軍一体化」、「軍隊化」している流れを受けていること、また戦前の旧日本軍の統治の姿に憧れ、国家神道、また天皇崇拝を軸とする帝国主義、植民地主義の復活、戦前への回帰を望んでいることに他ならない。

日本基督教団が、十五年戦争の戦時下において国と共に戦争を遂行した過ちと罪責を深く顧みるがゆえに、現岸田政権の推し進めている安全保障関連のすべてに反対の意を表明する。

まことに今必要なのは、粘り強い外交・話し合いによる戦争回避であり、一人ひとりの「いのち」と尊厳が守られることである。まことの平和は、銃を突きつけあって、脅しあうこと、また殺し合うことによってはおもたらされない。

「彼らは剣を打ち直して鋤とし／槍を打ち直して鎌とする」（イザヤ書 2 章 4 節）

日本基督教団京都教区総会は、武器、武力を放棄して、「いのち」の側に立つ主イエスに従うがゆえに、米国と「共にある」岸田政権の歩みに強く抗議し、また、まことの平和を希求する市民一人ひとりと連帯する。

2024 年 5 月 18 日

第 88 回（合同後第 58 回）日本基督教団 京都教区 定期総会